ー牧師室から ー

次主日は「平和聖日」で、広島から沼田鈴子さん（信徒の友８月号に写真掲載）が説教に来てくださる。沼田さんは２１歳の時、被爆し左足を切断手術された。婚約者も戦死され、女子高の教師をされていたが、被爆体験を話すことはなかった。1981年に１０フィート運動の中でアメリカ戦略爆撃調査団に撮影されたご自分を見て、翌年から証言活動をはじめられた。今は「原爆の語り部」として世界中を廻り、「反核・平和」を訴えておられる。

フランスのシラク氏は大統領に当選してから、すぐに南太平洋で核実験を再開すると言明した。南太平洋の島々では核実験反対のデモが繰り広げられた。オーストラリアやニュージーランドは強い抗議を表明している。ヨーロッパではブドウ酒などフランス製品の不買運動が広がっている。スイスではフランスの新幹線ＴＧＶに燃える液体が投げつけられ、一時停止したらしい。世界は核実験再開に怒りをあらわにしている。当然である。日本政府は唯一の被爆国として、どの国よりも強い抗議と行動を表わすべきではないか。新党さきがけの武村正義代表は、核実験海域に船を乗り入れると言っているが、選挙向けの発言でないことを願う。沼田さんはどう思っておられるだろうか。

シラク大統領は、ユダヤ人をナチスの強制収容所に送り込んだことにフランスは国家として責任があると、戦後の大統領で始めて認めたと報道されていた。「フランス国民は集団で間違いを犯した。この汚点は決して消えることはない」と語ったという。

私にはこの発言は白々しく聞える。それ以上に、核実験の国際的反発をそらすための発言としか思えず、腹立たしい。ユダヤ人大量殺人に加担したと謝罪するのならば、大量殺人兵器の核製造こそ止めるべきではないか。大国主義と兵器製造が「平和」を崩壊させていく。

週　報

１９９５年７月２３日　聖霊降臨節第８主日

巻１６　　１７号

１９９５年度教会主題

「恵みに生きる」

聖　句　すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。

コリントの信徒への手紙　二　１２章９節ａ

目　標　１．生活を整えて礼拝、諸集会を守る。

２．一人一人が伝道と奉仕を。

日本キリスト教団　横浜港南台教会

〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電　話　045-833-5323

ファックス　045-833-6616

振　替　00290-4-13994

牧師　秋吉隆雄